

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

愛知県 蟹江町

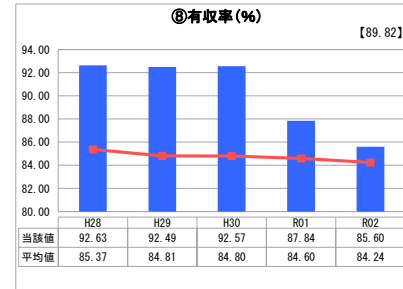
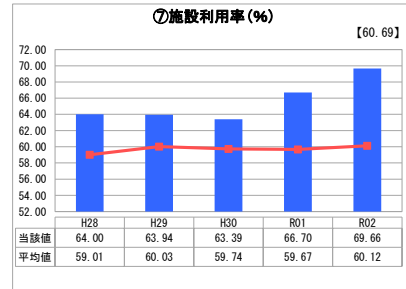
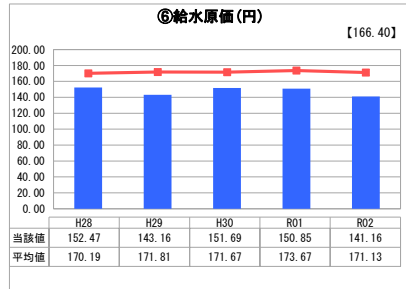
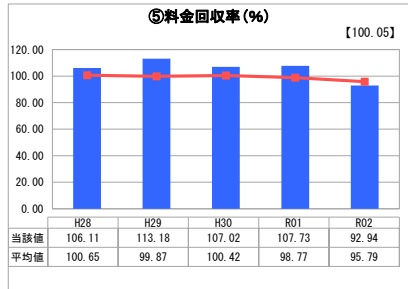
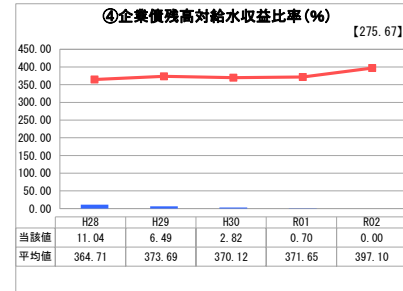
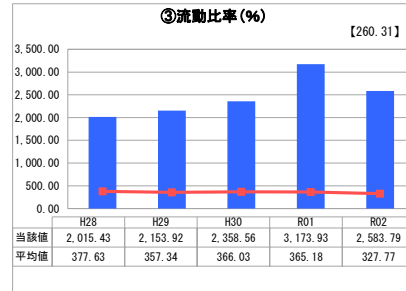
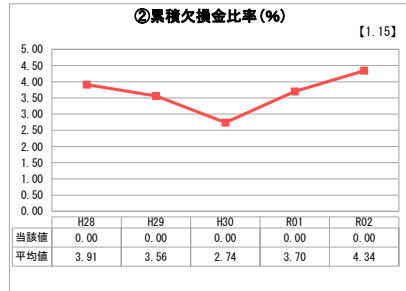
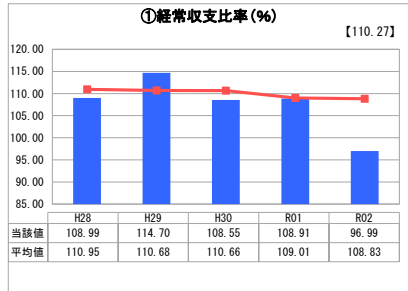
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	99.35	96.40	3,025	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
37,433	11.09	3,375.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
36,031	10.60	3,399.15

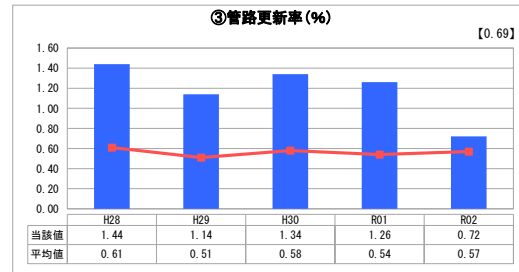
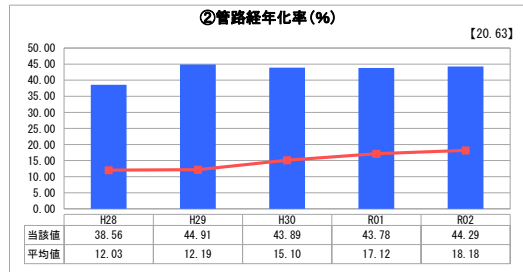
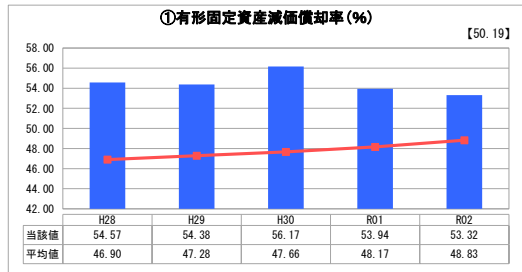
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①新型コロナウイルス感染症対策による支援で基本料金を6ヶ月間減免したことにより、給水収益が大幅に減少しました。総費用も工業計器点検委託料等の委託料、給与や減価償却費も減少しましたが、給水収益の減額が総費用の減少より多かったので経常収支比率が著しく低下し100%を切りました。②累積欠損金はありますが、新型コロナウイルス感染症対策による減免で給水収益が前年度比△15.3%であり、今後施設老朽化による維持管理費増加が予想されるため注視が必要です。③流動比率は類似団体・全国平均を大きく上回っており、令和元年度に企業債償還が終わり流動負債は減少しましたが、給水収益も減少したため前年度から比率は低下しております。④企業債残高対給水収益比率は、類似団体・全国平均よりかなり低い数値で推移しておりますが、今後老朽化資産の更新、管路の耐震化等、多額の投資が必要となり、その財源確保として企業債を活用する必要がありますので、将来負担を考慮し適切な起債を行っていかねばならないと考えています。⑤減免による給水収益の減少が影響し、供給単価が低下しました。委託料、給与費、減価償却費等の総費用も減少したため、給水原価も下がりましたが、給水管の漏水等が多化したので料金回収率が減少しました。⑦配水管の漏水等による無効水量の増加により、総配水量が増加したため、施設利用率が上昇しましたが、年間総有収量は微増のため⑧有収率は減少しました。類似団体と比較しても⑦⑧は高い率で推移しておりますが、今後人口減少社会へ移行していくなか、水運施設利用率は低下し、料金収入の減少が予想されるため、ダウンサイジングや広域化などの検討を進め、健全で安定した事業運営ができるよう経営基盤の安定化を図っていく必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率ともに類似団体及び全国平均より高い水準にあることから、施設の老朽化が進んでいるといえます。③管路更新率も類似団体及び全国平均より高い水準で推移しており、計画的に管路の更新を進めていると言えますが、依然、経年している管路が多く存在している状況です。限られた財源・人員のなか、計画的に管路の更新を行っていくため、老朽施設の更新とあわせて資産規模の適正化に努め、現状に即した投資を合理的に進めていく必要があります。

### 全体総括

新型コロナウイルス感染症対策による基本料金減免による影響により、給水収益が大幅に落ち込みましたが、現時点では経営の健全性・効率性は概ね確保されています。しかし、施設・設備の老朽化更新、管路の設備計画に多額の投資が必要となりますが、給水人口の減少、節水機器の普及、節水意識の向上などにより給水収益の減少が見込まれるため、今後の経営は厳しい環境になるとが予想されます。令和元年度に策定した水道ビジョン、経営戦略を町の総合計画や社会情勢を踏まえて令和5年、令和10年に適宜、評価・改善・検証等を行い、安全な水道の維持・強靱な水道の構築、持続可能な水道を目指して参ります。また、近隣市町村と広域連携の検討を進めて、現状の把握や課題を共有し、水道事業の基盤強化に努めて参りたいと思います。